

平成 28 年度研究助成 研究実績報告書

代表研究者	松田 曜子
研究テーマ	被災地ブログ等の共同翻訳を活用した災害文化の国際的発信に関する研究

<助成研究の要旨>

この研究は、東日本大震災後に始められた Voices from the Field (VfF) プロジェクトに端を発する。VfF は、主として東日本大震災の被災地で活動する被災者支援団体、地域の翻訳ボランティアグループ、海外の登録モニタの 3 者で成り立ち、支援団体のブログ（生の声）を翻訳ボランティアと、日英バイリンガルのボランティアが共同翻訳（翻訳の成果を互いに批評、共有しながら改善する取り組み）し、ウェブ（www.voicefromfield.com）で公開している。

本研究では、NPO 法人レスキューストックヤードが発行する冊子「被災者がいちばん伝えたいこと」の翻訳を完成させ、英語版冊子「What the survivors of the Great Eastern Japan Earthquake want to share — Voices from Shichigahama Town, Miyagi Prefecture」として発行した。この冊子は 39 編の被災者の語りより成り立っており、東日本大震災の津波を経験した宮城県七ヶ浜町の町民が「当時何があったのか」、そして「次の世代に何を伝えたいか」という内容について語ったものである。

さらに、共同翻訳のプロセスそのものに着目し、本研究では、このプロジェクトに関わったボランティアグループに作成した英文を見直してもらった形で「翻訳する上で悩んだ言葉とその理由」を尋ね、その困難さが「異文化の問題」と「未定義の問題」のどちらかに依拠しているかによって分類した。

① タイプ 1 日本人には自明だが、英語文化圏では自明ではない言葉（異文化の問題）

- ・ (仮設の) 世話人 / community facilitator in temporary housing
- ・ 民生委員さん / social welfare worker
- ・ 避難所 / evacuation shelters

② タイプ 2 災害の専門家には自明だが、非専門家には自明ではない言葉（未定義の問題）

- ・ みなし仮設 / in rented private apartment houses, also effectively considered “temporary housing”
- ・ 自助、共助 / self-help and mutual-help behavior is induced...

このように、災害知識の共同翻訳作業はその言葉が災害知識として「自明視 (Taken-for-granted-ness)」されているかどうかのテストとして機能しうることがわかった。タイプ 1 の異文化の問題をクリアしていない災害知識は、日本人には自明だが、外国の文化においては自明ではない。このような災害知識を普遍化するに当たっては、文化的差異への配慮が必要である。一方、タイプ 2 の未定義の問題をクリアしない災害知識は、専門家には自明であるが、「文化」として定着するには至っていない。こうした言葉は言葉としての熟成期間が浅く、本質が見きわめられないまま流布する可能性がある。今後も、英語版の冊子は国際交流や英会話教育などの分野でのさらなる活用が期待される。